

年 組 名前:

果樹カメムシ 防除強化

県調査地点 3ヵ所から倍増

山梨県はブドウや桃などに被害をもたらす果樹カメムシ類について、県内の調査地点を現在の3ヵ所から2倍以上



山梨県がカメムシの調査のために設置するわなのイメージ (山梨県提供)

に増やして対策を強化する。暖冬傾向を踏まえ、調査開始時期はこれまでの3月下旬から同月上旬に早め、2015年度で終了した越冬個体の調査も1月に再開。より精緻に発生状況を捉えて効果的な防除を行い、被害防止につなげる。県農業技術課によると、果樹カメムシ類は収穫前の果実の汁を吸い、吸われた部分に変色やくぼみができて商品価値が失われる。チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの3種類が被害を及ぼす。県は昨年3月下旬〜11月下旬、10日に1回のペースで、南アルプス市と甲州市の定点調査地点と県果樹試験場の計3ヵ所で調査を実施。誘引剤でおびき寄せ、粘着シートで

身動きを封じるわなで数を把握している。昨年は平年に比べて最大12倍、年間では平年比2倍程度が確認され、ブドウや桃、柿などで被害があった。県は昨年7月に12年以來となる注意報を発令し、9月にも2回目の注意報を出して農家に注意を呼びかけた。カメムシの対策には適切な時期に地域全体で一斉に防除する必要があるが、地域ごとに発生状況が異なる。調査地点を増やしてより細かく状況を把握し、適切なタイミングでの注意喚起や防除につなげる。今後、JAや関係自治体などと調整し、わなを設置する場所や数を確定するといふ。2月に設置予定で、調査開始も早める。また、越冬した個体が春から夏にかけて活動することから、冬場の個体調査も行う。15年度で調査は終了していたが、暖冬傾向にあることから再開することを決めた。県内の山林の複数地点を調べ、今春以降の参考とする。西日本では昨年、平年の6倍以上が確認された地域もあ

(2025年1月12日付 山梨日日新聞1面)

問1

果樹カメムシ類は、ブドウや桃などに、どのような被害をもたらしますか。

.....

問2

県が昨年実施した調査では、どのような方法で数を把握しましたか。

.....

問3

カメムシの対策をおこなう場合に、注意すべき点を答えてください。

.....

つたという。同課の担当者には「発生を把握する精度を高め、JAなどと連携して適期を逃さない防除につなげて県産果実を守っていきたい」と話している。
〈雨宮文貴〉